

今日のゴール

★ 決算整理仕訳で何が出題されるか把握する

SECTION 01

決算整理仕訳

期中の仕訳だけでは正しい貸借対照表・損益計算書を作成できません。正しく作成するための最後の調整として行う仕訳を**決算整理仕訳**と言います。

種類	説明	仕訳例
期中の仕訳もれ	計上し忘れた取引を期末に記帳する	(内容により異なる)
訂正仕訳	誤った仕訳を取り消し、正しく直す	誤仕訳の逆仕訳 → 正しい仕訳
現金過不足	帳簿残高と実際有高の差を期末に整理する	雑損 / 現金過不足 現金過不足 / 雑益
当座借越	当座預金残高がマイナスの場合に負債へ振替	当座預金 / 当座借越 (or 借入金)
売上原価	期末商品棚卸高を調整し、売れた商品の原価を確定する	仕入 / 繰越商品 (期首商品) 繰越商品 / 仕入 (期末商品)
貸倒引当金	売掛金等の将来の回収不能見込額を計上する	貸倒引当金繰入 / 貸倒引当金
減価償却	固定資産の価値の目減り分を費用として計上する	減価償却費 / 減価償却累計額
貯蔵品	未使用の切手・収入印紙を費用から資産へ振替	貯蔵品 / 通信費 貯蔵品 / 租税公課
経過勘定	収益・費用を正しい会計期間に対応させる (4種類)	費用 / 未払費用 未収収益 / 収益 前払費用 / 費用 収益 / 前受収益
消費税	仮受・仮払消費税を相殺して未払消費税を確定する	仮受消費税 / 仮払消費税 未払消費税
法人税等	当期の税額を確定し、未払分を計上する	法人税等 / 仮払法人税等 未払法人税等
損益振替	全収益・費用を損益勘定に集計し、当期純利益を確定する	収益勘定 / 損益 (収益を振替) 損益 / 費用勘定 (費用を振替) 損益 / 繰越利益剰余金

決算整理後残高試算表

残高試算表とは

全ての勘定科目の残高を集計した一覧表。借方合計＝貸方合計が必ず成立する。

決算整理後残高試算表とは

- ① 期中の仕訳をする
- ② 仕訳を集計して決算整理「前」残高試算表を作成する
- ③ 決算整理仕訳をする（Section 01の内容）
- ④ ②に③を反映させて決算整理「後」残高試算表を完成させる
- ⑤ ④に基づいて貸借対照表・損益計算書を作成する

前 → 決算整理 → 後のイメージ

2つの決算整理仕訳を行うと、残高試算表の数値がどう変わるかを確認しよう。

決算整理前（一部）			→	決算整理後（一部）		
借 方	勘定科目	貸 方		借 方	勘定科目	貸 方
12,000	支払利息			6,000	前払保険料	
24,000	保険料				未払利息	3,000
				15,000	支払利息	
				18,000	保険料	

支払利息 3,000 / 未払利息 3,000

前払保険料 6,000 / 保険料 6,000

NOTE

決算整理後も借方合計＝貸方合計は変わらない。

変わった科目は数値が更新され（支払利息・保険料）、新しい科目は行が追加される（前払保険料・未払利息）。

次の決算整理前残高試算表と決算整理事項にもとづいて、決算整理後残高試算表を完成させなさい。

決算整理前残高試算表

X8年3月31日

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
50,000	現金	
300,000	売掛金	
20,000	繰越商品	
480,000	備品	
108,000	仮払消費税	
30,000	仮払法人税等	
	貸倒引当金	3,000
	備品減価償却累計額	96,000
	買掛金	120,000
	仮受消費税	135,000
	借入金	150,000
	資本金	300,000
	繰越利益剰余金	46,000
	売上	1,350,000
900,000	仕入	
240,000	給料	
36,000	通信費	
24,000	保険料	
12,000	支払利息	
2,200,000	合計	2,200,000

決算整理事項

1. 期末商品棚卸高：28,000円（売上原価は「仕入」勘定で計算すること）
2. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）
3. 備品を定額法で減価償却する（耐用年数5年・残存価値ゼロ）
4. 経過勘定：①支払利息の未払い 3,000円 ②保険料のうち6,000円は翌期分
5. 通信費のうち4,000円は未使用の切手代（貯蔵品に振替）
6. 仮受消費税と仮払消費税を相殺し、未払消費税を確定させる
7. 法人税等72,000円を計上する（仮払法人税等と相殺、差額を未払法人税等とする）

決算整理後残高試算表

X8年3月31日

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
50,000	現金	
300,000	売掛金	
	繰越商品	
	貯蔵品	
	前払保険料	
480,000	備品	
	貸倒引当金	
	備品減価償却累計額	
	未払消費税	
	未払利息	
	未払法人税等	
	買掛金	120,000
	借入金	150,000
	資本金	300,000
	繰越利益剰余金	46,000
	売上	1,350,000
	仕入	
240,000	給料	
	通信費	
	保険料	
	支払利息	
	貸倒引当金繰入	
	減価償却費	

借方	勘定科目	貸方
	法人税等	
	合計	

① 決算整理仕訳

① 売上原価（仕入勘定）

借方	貸方
仕入	繰越商品
20,000	20,000
借方	貸方
繰越商品	仕入
28,000	28,000

仕入：900,000+20,000-28,000=892,000 繰越商品：28,000

③ 減価償却 480,000÷5年=96,000

借方	貸方
減価償却費	備品減価償却累計額
96,000	96,000

⑤ 貯蔵品

借方	貸方
貯蔵品	通信費
4,000	4,000

⑦ 法人税等 72,000-30,000=42,000（未払）

借方	貸方
法人税等	仮払法人税等
72,000	30,000
	未払法人税等
	42,000

② 貸倒引当金 300,000×2%=6,000 既存3,000 → 繰入3,000

借方	貸方
貸倒引当金繰入	貸倒引当金
3,000	3,000

④ 経過勘定

借方	貸方
支払利息	未払利息
3,000	3,000

借方	貸方
前払保険料	保険料
6,000	6,000

⑥ 消費税 135,000-108,000=27,000（未払）

借方	貸方
仮受消費税	仮払消費税
135,000	108,000
	未払消費税
	27,000

② 決算整理後残高試算表

X8年3月31日

（単位：円）

借方	勘定科目	貸方
50,000	現 金	
300,000	売掛金	
28,000	繰越商品	
4,000	貯蔵品	
6,000	前払保険料	
480,000	備品	
	貸倒引当金	6,000
	備品減価償却累計額	192,000
	未払消費税	27,000
	未払利息	3,000
	未払法人税等	42,000
	買掛金	120,000
	借入金	150,000
	資本金	300,000
	繰越利益剰余金	46,000
	売上	1,350,000
892,000	仕入	
240,000	給料	
32,000	通信費	
18,000	保険料	
15,000	支払利息	
3,000	貸倒引当金繰入	
96,000	減価償却費	
72,000	法人税等	
2,236,000	合計	2,236,000

今日のまとめ

決算整理仕訳で何が出題されるか把握する

決算整理仕訳は期中仕訳だけでは反映できない調整を期末に行うもの。売上原価・貸倒引当金・減価償却・経過勘定が特に頻出

★ 決算整理後残高試算表＝決算整理前残高試算表に決算整理仕訳を反映して集計し直したもの。借方合計＝貸方合計は変わらない

試験（第3問）では決算整理後残高試算表の完成が頻出。決算整理仕訳の影響を一科目ずつ丁寧に反映させることが鍵